ビートルズ最古の日本盤レコードを探せ

飄々

広報委員

吉川　功一

今回も飄々と、私の趣味であるビートルズアイテムコレクションの話です。ビートルズに関係するアイテムはたくさんありますが、果たして数あるビートルズの日本盤レコードの中で「最も古いレコード」とはどんな物なのでしょう？

ビートルズの記念すべき日本デビューレコードは、1964年２月発売の東芝シングル「抱きしめたい」（OR-1041）とされています。“とされています”と書いた理由は後述しますが、とにかく普通に考えると、この「抱きしめたい」のシングルレコードがビートルズ最古の日本盤レコードということになります。今となってはそれなりに珍しい、この56年前のデビューレコードですが、そうはいっても当時は大ヒットしたわけですから中古市場をちょっと探せば見つかり、そんなに入手困難なものではありません。果たしてこれがビートルズ最古の日本盤レコードなのか？・・・実は違います。

レコードをプレスして正式に市場販売する前にレコード会社では試験的なレコードが作製されます。いわゆる「テスト盤」と呼ばれるもので、マスターテープからスタンパーを作製し試験的に何枚かプレスされるレコードのことです。できたテスト盤を用いてカッティングレベルはよいか？針飛びなどの問題は無いか？などがチェックされて、問題なければ正式なレコードプレスが始まるわけです。このとき、まずはラジオ局、音楽関係者などに配るプロモーション用のレコードが作製されます。これがいわゆる「見本盤」で、その後に市場販売用の正式なレコード「レギュラー盤」が作製されます。つまり、テスト盤→見本盤→レギュラー盤の順で作製されるため、日本最古のレコードという意味では「シングル『抱きしめたい』のテスト盤」がビートルズ最古の日本盤レコードということになります。

前置きが長くなりましたが、**写真１左**にお示しするのがその「シングル『抱きしめたい』のテスト盤」です。通常は市場に流れないレコードですが、当時の関係者が保存していたものが時に市場に出てくることがあり、これもそういった経路で入手できたものです。私は当時の日本の世相まで感じられる日本盤には特別な想いがあるので、このレコードを入手できたときはとても嬉しかったものです。

ということで、めでたし、めでたし・・・・と、終わりにしてもよいのですが、実はまだまだこのビートルズ最古の日本盤レコード探しには続きがあります。

先に「ビートルズの記念すべき日本デビューレコードは1964年２月発売の東芝シングル『抱きしめたい』（OR-1041）とされています」と書きましたが、実はいまだにこれがよく分かっていないのです。あのビートルズの日本デビューレコードが分からないなんて由々しき事態ですが、本当なのです。一般的にはデビューシングルは「抱きしめたい」（OR-1041）、セカンドシングルは「プリーズ・プリーズ・ミー」（OR-1024）とされています。公式ディスコグラフィーやいろいろな本、ウィキペディアにもそう書かれています。しかし、レコードカタログナンバーをみると、セカンドシングルである「プリーズ・プリーズ・ミー」の

写真1

左：「抱きしめたい」のテスト盤　　右：「プリーズ・プリーズ・ミー」のテスト盤

ほうがOR-1024で若い番号であることに気づきます。これには事情があります。実は東芝音楽工業は当初、日本デビュー盤として「プリーズ・プリーズ・ミー」の1964年2月発売を計画していました。しかし1963年12月、ビートルズは「抱きしめたい」でアメリカ正式デビューを飾り、大ヒット。その後1964年2月には鳴り物入りでアメリカ上陸し「エドサリバンショー」に出演、視聴率72%を記録、その後、アメリカの『ビルボード』誌ヒットチャート1位から5位まですべてビートルズが独占するなどの爆発的ヒットとなっていきます。このアメリカでの「抱きしめたい」大ヒットの知らせを受けた日本の東芝音楽工業は急遽、デビューシングルを「プリーズ・プリーズ・ミー」からアメリカで大ヒット中の「抱きしめたい」に差し替えたのだそうです。このことは当時のビートルズ担当ディレクターの高嶋弘之氏（高嶋ちさ子さんのお父様）が自ら証言しています。実際そのように私もご本人から直接お聞きしました（**写真2**）。したがって、現在は「抱きしめたい」がデビューシングルというのが定説となっています。しかし、実は当時の新聞記事、音楽雑誌記事、日本のラジオのヒットチャートなどの動きをみると、どうみても「プリーズ・プリーズ・ミー」が先に発売されていたような形跡が目立つのです。さらには、1960年代当時の高嶋氏自身のインタビュー記事などを見ると、デビュー盤は「プリーズ・プリーズ・ミー」であるような書き方がしてあったりと、事実はどちらなのかいまだにコアなビートルズファンの間では議論になっています。ちなみに「抱きしめたい」（原題：I Want To Hold Your Hand）という邦題はその高嶋氏が付けたもので、その後もたくさんの日本のビートルズ

写真2　日本におけるビートルズ売り出しの立役者、初代ビートルズ担当ディレクター高嶋弘之 氏（高嶋ちさ子さんのお父様）と筆者

ファンにはなじみ深い、味のある邦題を付けておられます。原題：Norwegian Woodは本来「ノルウェー産の木材」という意味なのですが、日本題は「ノルウェーの森」。WoodsではなくWoodなので本来は「森」ではないのですが、高嶋氏は感覚的にそのように邦題を付けたと回顧されています。しかし、これが奏を功して（？）、のちに村上春樹氏の『ノルウェイの森』が生まれたのは有名な話。

完全に話が脱線しました。話を戻します。それでは実際「シングル『抱きしめたい』のテスト盤」こそが本当にビートルズ最古の日本盤レコードで間違いないのでしょうか？飲み込みの早い方なら分かるかと思いますが、実際の発売順序がどちらが先だったかはいまだ謎だとしても、当初デビューシングルとして計画・準備されたレコードはカタログナンバーの若い「プリーズ・プリーズ・ミー」であったことはまず間違いありません。つまりは**写真1右**にお示しする「シングル『プリーズ・プリーズ・ミー』のテスト盤」こそが真のビートルズ最古の日本盤レコードということになります。

ということで、めでたし、めでたし・・・・と、終わりにしてもよいのですが、実はなんとこの話まだ終わらないのです。いい加減飽きたかもしれませんが、今しばらくおつきあいください。

ビートルズにとても詳しい方ならご存じかもしれませんが、ビートルズは1962年10月のイギリス正式デビュー前、ドイツのハンブルクでの下積み時代にトニー・シェリダンという歌手のバックバンドとして実はレコードデビューを果たしています。そのレコードは1961年8月にドイツでのみ発売された「My Bonnie」。実は、あろう事かこのシングル、1962年5月にこっそり日本盤がポリドールより発売されていたのです。その名も「マイ・ボニー・ツイスト」（当時、日本ではツイストが大流行中）、名義は「トニー・シェリダンと彼のビート・ブラザーズ」。当時はまだビートルズはイギリスデビューすら果たしておらず、イギリスでも無名で当然、日本人が知るわけもないわけですが、実はこの「彼のビート・ブラザーズ」こそがのちのビートルズだったのです。当然、このレコードはヒットもすることなく、あっという間に廃盤となり、この世から消えています。ということで、このポリドール初盤「マイ・ボニー・ツイスト」はビートルズの日本盤レコードの中でも超弩級のレアレコードとなっており、今となっては10～20枚しか現存しないといわれています。

写真3　「マイ・ボニー・ツイスト」見本盤

再び話を戻します。ということは、このレコードのテスト盤・見本盤こそが日本最古のビートルズのレコードということになります。市販用レギュラー盤ですら10～20枚しか現存していないようなレコードのテスト盤や見本盤なんて果たして残っているのでしょうか？？？

さんざん話を引っ張ってきましたが、そのまさかの「シングル『マイ・ボニー・ツイスト』の見本盤」、実は我が家にあります。それが**写真3**。これぞ真のビートルズ最古の日本盤レコードといえるでしょう。しかし、これは見本盤ですから、さらに世代の若い「テスト盤」はこの世に残っているのかな？？さすらいのビートルズレコード探し、この先もまだまだ続きそうです。